

【復習】

- (1) 今いるディレクトリを調べなさい.

コマンド: [**% pwd**]

- (2) 今のディレクトリとそれ以下の階層のファイルの構成を調べなさい.

コマンド: [**% ls -R**]

/home

showname showname.c hello.c~

./040510

hello hello.c

./040517

name.txt

./040517/dir1 (以下省略)

- (3) hello.c~は emacs のバックアップファイルなので消去する.

コマンド: [**% rm hello.c~**] ←ファイル名の入力にあたって、最初の数文字(たとえば hel)まで入力した時点で「tab」キーを押すとあとのファイル名を補完してくれるので覚えておくと楽!

【ワイルドカード】

- (1) 本日の 040524 というディレクトリを作成しそのディレクトリに移動しなさい

コマンド: [**% mkdir 040524**] [**% cd 040524**]

- (2) 「% cp -r /homer/se/tea/rejohea8/lesson/wild .」でサンプルファイルをコピーして、教科書 p.18 からのワイルドカードの使い方を練習しなさい.

- (3) 「% cd」でホームディレクトリに移動し「show」ではじまるファイルの詳細内容(アクセス権等)を表示.

コマンド: [**% ls -l show***]

* showname には showname.c にはない実行権があることに注意.

- (4) 「show」ではじまるファイル (showname と showname.c) 2つを 1 コマンドで 040510 ディレクトリの下に移動する

コマンド: [**% cp show* 040510**]

- (5) 「0405」ではじまるすべてのディレクトリ以下のファイルを階層表示しなさい.

コマンド: [**% ls -R 0405***]

【標準出力をファイルに出力する (リダイレクト)】

- (1) 本日の 040524 というディレクトリに移動しなさい.

コマンド: [**% cd 030524**]

- (2) 2004 年のカレンダーをファイルに出力して cat で中身を確認する.

コマンド: [**% cal 2004 > cal2004**]

- (3) 2000 年から 2002 年までのカレンダーを calall にまとめて cat と more の 2 種類の方法でファイルの内容を確認する. (「>>」を使用するとファイルへの追加書き込みとなる.)

コマンド: [% cal 2000 > calall] [% cal 2001 >> calall] [% cal 2002 >> calall]

コマンド : [**% ls calall**] [**% more calall**]

*ここで、再び `cal 2000 > calall` とすると 2000 年だけのカレンダーになることを確認。

【emacs の練習】 p.65 の表をできるだけ覚えよう！

- (1) `name.txt` というファイルを作り、自分の名前を記入する。
- (2) `address.txt` というファイルをつくり、自分のメールアドレスを記入する。
- (3) `phone.txt` というファイルをつくり、自分の電話番号を記入する。
- (4) 上記 3 つのファイルをまとめて、`profile.txt` というファイルを作る。
- (5) (`% cat` ファイル名 `>> profile.txt` というコマンドを使用)
- (6) `profile.txt` を emacs で開いてメールアドレスが記入してある行を電話番号が記入してある行の後に持ってくる。

範囲指定開始 : [**Ctrl-SPACE** キー]

コピー : [**Alt-w**] 削除 : [**Ctrl-w**]

ペースト (ヤンク) : [**Ctrl-y**]

【入力を端末から入力して足し算をする C プログラム】

- (1) 下記のプログラムを `wa.c` という名前のファイルで入力してコンパイルし実行しなさい。

(1 回目はイタリック体の部分はなしで、2 回目はイタリック体を付け加えて実行してみてください.)

=====プログラム始まり=====

```
#include <stdio.h>
```

```
main()
```

```
{
```

```
    int a, b, c;
```

```
    printf("INPUT DATA a:");
```

```
    scanf("%d", &a);
```

```
    printf("INPUT DATA b:");
```

```
    scanf("%d", &b);
```

```
    c=a+b;
```

```
    printf("a+b=");
```

```
    printf("%d¥n", c);
```

```
}
```

=====プログラム終わり=====

【Advance】(a)は宿題とする。(入力は整数しかできず、商は切り捨て表示となる.)

- (a)上記の和を計算するプログラムを改訂して、差、積、商も出力するようにしなさい。

(1)元のプログラム `wa.c` を `shisoku.c` というファイル名でコピーする

(2)emacs で `shisoku.c` を開き、コピーとペーストを使用して、編集する

(3)コンパイルして実行

- (b)%bc で計算させたいプログラムを `bc_infile` に記載して、`bc_infile` から入力して実行してみてください。

コマンド : [**% bc < bc_infile**]